

# 羽 沢

令和 2 年 1 月号  
横浜市立羽沢小学校  
学校長 田屋多恵子

(E) 笑顔いっぱい (S) 健やかいっぱい (D) 大好き羽沢の人とまち

羽沢小学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hazawa/>



## 新年を迎えて

校長 田屋 多恵子

令和 2 年、新年を迎えました。羽沢小学校の正門から晴れた日には遠く富士山やたくさんの山々が見えます。息を吸うと、その冷たい空気に気が引き締まります。

昨年に「羽沢国大前駅」の開通があり、少しずつ人々の流れも変わりつつあるように思います。

西谷駅の表示には「新宿行き」「川越行き」があり、東京行へ通勤する方々が並んでいます。相模鉄道が相互乗り入れで、東京につながるとは、時代の移り変わりを感じます。

学校でも次年度より、5・6年生の外国語活動が英語科となり評価も始まり、プログラミング教育もスタートします。横浜市では、「横浜教育ビジョン2030」に示された横浜の教育が目指す人づくり、横浜の教育が育む力、横浜の教育の方向性を踏まえ、横浜市立小学校カリキュラム・マネジメント要領総則などが策定されました。それを受けて学校では、子どもたちの学習の成果を的確に捉え、子どもたち自身が自分の学びを振り返って、次の学びに向かうことのできる学習の評価をカリキュラム・マネジメントの一環としてとらえながら指導を進められるよう努力していきます。

さて、昨年羽沢小学校の子どもたちは、生活科や総合的な学習の時間で「羽沢のまちのよいところを見つけて発信しよう」というテーマに取り組んだり、開通する駅を題材に「夢の羽沢鉄道～かがやけ！未来の羽沢～」など、まちや学校にかかわったりすることから学習を進めています。特に6年生は、駅やまちに焦点を絞り、自分たちの学級が課題であると思ったことを追求しています。自分たちで調べたりする他、まちの人に、「あなたは駅を利用しますか。」や「駅ができることでまちはどう変わりますか。」と質問したりしながら、まちの発展について考えています。

自分たちが興味をもったことや関心があることを追求できるところが生活科や総合的な学習のよいところです。「地域みんなが笑顔になるジャムづくり」に挑戦した学級は、校庭の夏みかんや育てたキャベツを使った「みかんジャム」や「キャベツジャム」に挑戦することができました。「みかんジャム」は、甘さいっぱいのオレンジ色のジャムになりましたし、畑の採りたてキャベツで作った「キャベツジャム」は、きれいな薄緑のほんのりはちみつの味がする自然な甘さのおいしいジャムになりました。子どもたちは、学習する前から「無理だ。」と思わず何事にもチャレンジする楽しさを学ぶことができました。

これからも子どもたちには、生活科や総合的な学習の時間だけでなく、様々な教科の学習の中からも、自ら解決したいという課題を発見し、仲間と話し合いながら解決の方法を考えて行動にうつせるような子どもに育ててほしいと願っています。またその学びを教職員も支えていきたいと思っています。それが、子どもたちが持続可能な未来の社会を切り拓いていくための資質や能力を育てることだと思っております。本年も本校教育活動にご理解ご協力をいただけますようお願い申し上げます。